

ラボDXを推進するファシリティマネジメント

2025年1月30日 (木) 14:00 – 16:00
開催場所：オンライン (zoomを想定)

研究成果を生み出す場であるラボラトリー。その場のデジタルトランスフォーメーションへの機運が高まってきている。ラボDXとは、人、もの、機器、データがつながり、データが新たなデータを創出することで、指数関数的に研究成果が創出される研究環境の変革である。その変革をもたらすファシリティマネジメントのあり方について議論する。

プログラム

開会挨拶：一般社団法人日本分析機器工業会 専務理事 松浦義和

講演 1：「ラボDXを推進するファシリティマネジメントについて」

(講師)一般社団法人日本分析機器工業会 技術委員会委員長, 日本電子株式会社 参与 杉沢寿志

講演 2：「JIS K0200計測分析機器の分析データ共通フォーマットについて」

(講師) 国立大学法人九州工業大 理事 副学長 (教育接続・連携PF、情報担当) 安永卓生

AI活用等のデータ駆動型研究開発を推進する上で計測分析機器出力データの共通データフォーマット化は重要であろう。世界に先んじて日本でJIS K0200計測分析機器の分析データ共通フォーマットを制定した社会的背景、フォーマット利用のメリット、ユースケースなどを交え、規格の概要を紹介する。

パネルディスカッション

ラボDXを推進するファシリティマネジメント (共用) と研究DXを推進するデータマネジメントについて議論する

パネリスト

文部科学省

長我部信行 株式会社日立ハイテク コアテクノロジー & ソリューション事業統括本部 エグゼクティブアドバイザー,
JST未来社会創造事業の「共通基盤領域」総括

藤村 紀文 大阪公立大学 副学長 (産学官共創・知財)

安永 卓生 国立大学法人九州工業大 理事 副学長 (教育接続・連携PF、情報担当)

松波 成行 国立研究開発法人物質・材料研究機構 技術開発・共用部門 マテリアル先端リサーチインフラセンターハブ 代表

杉沢 寿志 一般社団法人日本分析機器工業会 技術委員会委員長, 日本電子株式会社 参与

ファシリテーター：江端新吾

一般社団法人研究基盤協議会 代表理事/会長, 東京科学大 理事補佐 (総合戦略担当)

閉会挨拶：一般社団法人研究基盤協議会 理事/副会長 長谷川浩